

● 总策划 / 许小明

新编

日语教程

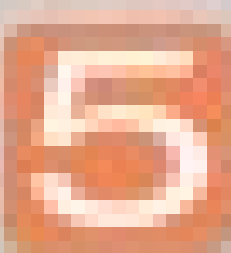
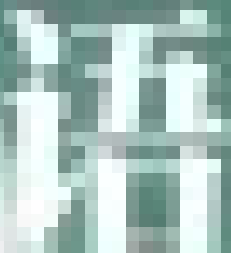
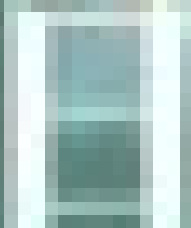
にほんご

5

总主编 / 皮细庚 主编 / 张建华

華東理工大学出版社





にほんご

新編
日语教程

总策划／许小明 总主编／皮细庚 主编／张建华

华东理工大学出版社

5

图书在版编目(CIP)数据

新编日语教程 5/皮细庚总主编;张建华主编. 上海:华东理工大学出版社,2007.10(2008.2重印)

ISBN 978-7-5628-2152-6

I. 日... II. ①皮...②张... III. 日语-教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 145843 号

新编日语教程 5

总策划 许小明

总主编 皮细庚

主 编 张建华

顾 问 / 许 伟

策划编辑 / 陈 勤

责任编辑 / 苏 靖

责任校对 / 华 校

封面设计 / 戚亮轩

插 图 / 赵 蓉

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021)64250306(营销部)

(021)64252717(编辑室)

传 真:(021)64252707

网 址:www.hdlgpress.com.cn

印 刷 / 江苏句容市排印厂

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 22

字 数 / 548 千字

版 次 / 2007 年 10 月第 1 版

印 次 / 2008 年 2 月第 2 次

印 数 / 8051-13070 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2152-6/H·652

定 价 / 39.50 元(赠 MP3 光盘)

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

本书编委会

总策划 许小明

总主编 皮细庚

主 编 张建华

副主编 林 彬

文 俊

许小明

前言

本套教材共六册,主要针对日语专业的学生、社会日语培训人员、日语爱好者等多种人群。从零起点开始,第一册学完达到日语能力考试4级程度、J. TEST 考试F级程度;第二册学完达到日语能力考试3级程度、J. TEST 考试E级程度;第三、四册学完达到日语能力考试2级程度、J. TEST 考试D、C级程度、日语口译中级阶段;第五、六册学完能达到日语能力考试1级程度、J. TEST 考试B、A级程度、日语口译高级阶段。

教材在编写上注重培养学生学习日语的方法和兴趣,通过对日本文化、风土人情等全方位的了解,达到全面学习日语的目的。在通过日语考试的同时,更注重日语实际应用能力的提高,培养学生的开口能力。第一册学完,熟练掌握日语的寒暄语;第二册学完,掌握基本的日常会话;第三册学完,能够进行日常交流;第四册学完,掌握日常办公室用语;第五册学完,掌握流利的会话和日语商贸用语;第六册学完,掌握日语口译和笔译能力,达到流利的日语交流和应用能力。

第一、二册教材主要针对零起点学习者,编写时以营造轻松愉快的学习课题为主线,让初学者快速融入日语学习的角色里,学完两本教材能达到日语3级程度。

第三、四册教材的导入部分、日语会话和阅读部分均用日语编写。这样可以使学习者沉浸在全日语的环境中,扎扎实实提高自己的阅读理解能力。另外,每课的练习不同于传统教材,而是采用日语2级能力考试模拟的方式,并且将每课单词、文法、阅读全部融入练习中,让学习者能及时巩固所学内容。

第五、六册的编写是在第三、四册教材的基础上,将日语能力考试、J. TEST 考试、口译考试办公礼仪和商务口语全部融合在一起。让大家能学到更加地道、流利的日语。同时在练习部分将1级能力考试、口译考试、J. TEST 考试部分融入每课练习中。

本套教材是以中国女孩王小华为主人公展开故事情节的,这样使学习内容变得更加生动形象。教材中的出场人物都被漫画化,使得每课内容不再枯燥,同时将知识性、趣味性与实用性全面结合在一起。在学习本套教材的同时,可以真切体验丰富多彩的日本留学生活。

第五、六册的编写,保持了1—4册的编写风格和追求目标,并注意与第三、四册教材的衔接,从而在选材时注意把握好文章的难易程度以及内容组合。在此基础上,五、六册教材尽量追求课文内容的题材多样化,选择可读性强、语言表达规范的文章。文章的内容涉及日

本的文化、文学、社会、科学和经济等不同领域,力求使学生通过这两册教材的学习,在原有的基础上进一步提高日语实力,并对日本社会有更多的了解。

第五、六册教材各由 16 课组成。每课分别设有“课文、单词、基本文法、句型、会话、读解文、本文练习、课外练习”等八个部分。

语法学习和句型学习部分主要用来说明课文中出现的、在日语能力 1 级考试中又经常遇到的语法现象和句型,适当配有例句以供学习者参考。阅读文部分主要是以日语能力 1 级考试的长篇阅读理解文为基础,大部分配有练习。会话部分以王小华从事商务工作在办公室里所涉及到问题为场景,通过该部分的学习,读者可以学习到地道的商务日语口语。练习由两大项组成,一项是围绕课文编写的问题,另有一篇作文和一篇演讲题目;另一项是以日语能力 1 级考试为中心的文字词汇和语法练习。

附录里收录了每课的课文和阅读文中所出现的单词,并配有读解文和练习的文字和语法部分的参考答案。

我们希望本教材可以帮助读者有效地提高日语水平,同时也进一步提高应对日语能力考试以及其他各类考试的应考能力。

本教材的编写得到了上海外国语大学、上海工商外国语学院、中国 J. TEST 事务局的大力支持和协助,得到了新世界教育集团诸位日语专家的大力支持。在此,谨向对本套教材的编写给予过帮助的单位和个人致以谢意。书中不妥之处在所难免,诚请同行专家和广大读者不吝指教,以便今后进一步完善。

编者

2007 年 9 月

目次

第1課	メディアとわたしたち	1
	単語	3
	基本文法	6
	文型	11
	会話 アンケート調査の質問項目	13
	読解文 満開の桜	14
	本文練習	17
	課外練習	18
第2課	「豊かさ」再考	21
	単語	23
	基本文法	26
	文型	31
	会話 サービスセンター	32
	読解文 静かなる会議	33
	本文練習	36
	課外練習	37
第3課	クジラが人間を注目し始めた	40
	単語	42
	基本文法	46
	文型	49
	会話 タバコの吸う場所	51
	読解文 ハーフミラー	51
	本文練習	54
	課外練習	55
第4課	二十年後	58
	単語	60
	基本文法	64
	文型	66
	会話 パンフレットの作成	69
	読解文 レトリックの記号論	70

	本文練習	75
	課外練習	75
第5課	無医村の優しい人々	79
	単語	82
	基本文法	85
	文型	89
	会話 プリンタのメーカーからのお知らせ	92
	読解文 字のない葉書	93
	本文練習	97
	課外練習	98
第6課	包む	101
	単語	103
	基本文法	109
	文型	113
	会話 メモ	115
	読解文 不惑の雑考	116
	本文練習	119
	課外練習	119
第7課	心のバリアフリー	123
	単語	125
	基本文法	127
	文型	130
	会話 レストランの予約	131
	読解文 翻訳の技術	132
	本文練習	135
	課外練習	135
第8課	留守番電話はなぜかけにくい	139
	単語	142
	基本文法	145
	文型	149
	会話 出張	150
	読解文 「捨てる」技術	151
	本文練習	154
	課外練習	154

第9課	この小さな地球の上で	158
	単語	160
	基本文法	165
	文型	167
	会話 出張精算書	169
	読解文 地雷と聖火	169
	本文練習	173
	課外練習	174
第10課	かけがえのない地球	177
	単語	179
	基本文法	181
	文型	184
	会話 回覧	186
	読解文 きき方の理論	186
	本文練習	189
	課外練習	190
第11課	未来の花たちへ	193
	単語	196
	基本文法	198
	文型	201
	会話 会議での提案	203
	読解文 くんずほぐれつ	203
	本文練習	206
	課外練習	207
第12課	生命輝く砂漠	211
	単語	213
	基本文法	216
	文型	219
	会話 会議の準備—資料の作成	222
	読解文 この国の失敗の本質	222
	本文練習	226
	課外練習	226
第13課	たそがれ	230
	単語	233
	基本文法	237

	文型	239
	会話 見本市の会場で	240
	読解文 短歌を味わう	241
	本文練習	244
	課外練習	245
第14課	ホテルの里づくり	248
	単語	251
	基本文法	253
	文型	256
	会話 見積もり書のメモ	256
	読解文 川べりの道	257
	本文練習	261
	課外練習	261
第15課	自然のシステムに学ぶ	265
	単語	267
	基本文法	270
	文型	273
	会話 見積書の提出	276
	読解文 共犯者	276
	本文練習	279
	課外練習	280
第16課	若者が文化を創造する	284
	単語	287
	基本文法	290
	文型	292
	会話 課長からの電話	294
	読解文 考えるヒト	294
	本文練習	298
	課外練習	298
附录		
	一、本册单词索引	302
	二、补充词汇(一级)	326
	三、参考答案	338

第1課 メディアとわたしたち

見城武秀

テレビや新聞、ビデオ、CD、本、雑誌、インターネット、電話など、ある人のもとから他の人のもとへ、情報が移動するときに使われる情報の「乗り物」を、メディアと呼ぶ。あなたは、メディアが自分の生活とどのようなかかわりをもっているか、改めて考えてみたことがあるだろうか。

毎日の生活を振り返ってみてほしい。朝起きれば、多く人はテレビや新聞でニュース、天気予報などを見る。学校で、授業中にビデオやテレビ



が利用されることもある。帰宅後は、CDを聴く人もいれば、本や雑誌を読みふける人もいよう。最近では、インターネットで情報を集めたり、メッセージ交換をしたりする人も急速に増えてきた。また、毎晩のように友達と電話でおしゃべりをするのが習慣になっている人も、少なからずいるのではないだろうか。

このように、メディアは、わたしたちの日常生活と切っても切れない関係にある。ないと困るけれども、ふだん意識することが少ないという意味では、水や空気のような存在だといえるかもしれない。

ところで、「メディアを用いて情報を送ったり受け取ったりするとき、わたしたちは知らず知らずのうちにいろいろな約束事に従っている。」と言われたら、どんな感じがするだろうか。テレビと新聞を題材に考えてみることにしたい。

例えば、テレビドラマの中で二人の登場人物が会話を交わしているとき、突然一人の表情がクローズアップされたとしよう。このような場合に、登場人物の顔がいきなり風船のように膨らんだと考える人はあまりいないだろう。そのかわり、クローズアップという約束事をふまえながら、「ここでは大写しになった人物の心の動きに焦点が当てられているんだな。」などといった解釈を、自分でもあまり意識しないままに行っているはずだ。

新聞を読むときであれば、わたしたちは暗黙のうちに、トップ記事がその日の最も重要なできごとを取りあげていると見なす。また、見出しの大きさや記事の量と、その記事の重要性とは、ほぼ比例するという約束事にそって、ときには本文を全く読まないまま、記事の重要さの度合いを判断している。

これらの約束事は、それぞれのメディアがもつ表現上の得意、不得意と密接な関係を

もっていることが多い。

テレビが得意なのは、映像をふんだんに盛りこんだ迫真の情報をわたしたちに伝えることだ。先ほど例にあげたクローズアップも、映像の表現力をさらに高めるために編み出された技法である。ところが逆に、テレビは映像を伴わない事柄や映像にしにくい事柄についての表現が不得意だ。「画にならない」できごとは、あまりテレビ向きでないものである。

一方新聞は、主に文字によって情報を伝えるので、できごとの背景や影響についてじっくりと分析を加え、読者に伝えることを得意とする。しかしその反面、テレビに比べるとどうしても臨場感に欠けるし、短時間で要点をわかりやすく伝えることが苦手である。そこでそれを補うために、見出しのつけ方や記事の書き方、組み方について、さまざまな約束事を工夫してきた。

このように、メディアには得意とする表現法と、それを支える約束事がある。そこでどのメディアも、ある事柄について情報を伝えるとき、自分がいちばん得意とする表現法に合わせて情報を編集する。つまり、情報の一部を切り落としたり、情報のある側面を強調したり、一つの情報の間に別の情報の断片を挟みこんだりといった加工を行うのだ。そのため、たとえ同じ事柄についての情報であっても、どのメディアから情報を得たかによって、その事柄に対するわたしたちの印象が大きく変わってしまうことがある。また、テレビや新聞の取材を受けた人自身が、「自分の話したことと報道されていることが違う。」と感じることさえしばしばある。

では、わたしたちは、「メディアは情報を編集することによって現実をゆがめている、うそをついている。」と言うべきなのだろうか。

確かに、そう言うべきときがある。例えば、メディアが事件の犯人ではない人をあたかも犯人であるかのように報道してしまったり、意図的に情報を隠したり、よけいな情報を付け加えたりして、わたしたちが情報から受け取る印象を特定の方向に誘導したりする場合だ。

しかしながら、情報の編集には、ふつうなら見ることのできない現象をわたしたちに見せてくれるという側面もある。例えばテレビは、スローモーション映像によって、肉眼では決して確認できない動きを見せてくれる。

スローモーション映像は、もともとのできごとがもっているスピード感をそぎ落とすものの、まさにそのために、通常は見ることのできない場面を見せてくれるのである。

より身近な例で考えてみよう。みなさんが授業中、ある事柄について発表するときには、それについて知らない人にも自分の発表をよく理解してもらうための努力をしないだろうか。例えば、調べたことの中で重要なことと重要でないことを区別し、発表すべきだと判断したことについてはその順番を考え、目で見たほうがわかりやすい部分については図や表を作成するといったように。それも立派な情報の編集なのだ。もしこのような情報の編集を全く行わないとしたら、その情報は他人にうまく伝わらず、したがって、そもそもそれを情報と呼ぶことさえできない。

同様に、メディアが情報の編集を行うからこそ、わたしたちはメディアを通じて自分一人ではできないような体験をし、ふだんなら見過ごしてしまうかもしれない事柄に目を向けることができる。だから、もしメディアがほとんど情報の編集を行わなくなってしまうたら、わたしたちの経験できること、理解できることはたちまちやせ細ってしまう

だろう。

つまり、メディアによる情報の編集には、情報のある部分を見えにくくするという面と、ある部分を見えやすくするという面がコインの裏表のように備わっているのである。だから、情報の編集を行っているからといって、「メディアは常に現実をゆがめている、うそをついている。」と結論するなら、情報の編集がもつ積極的な意味が見失われてしまうことになる。

それでは、わたしたちはメディアとどのようにつきあっていったらよいのだろうか。

まずは、いろいろなメディアがもっている表現上の特徴についてよく学び、それぞれのメディアの長所と短所を知ることだ。それによってわたしたちは、メディアを通じて流れてくる情報を単にそのまま受け入れるだけでなく、自分で積極的に解釈し直すことができるだろう。また、自らメディアを通じて情報を編集し、他人に向けて発信するときの注意点もわかってくるはずだ。実際に自分から情報を発信してみる経験を積めば、情報の送り手側の視点と受け手側の視点の両方から、メディアを眺めることもできるようになってくる。

このように、良いところと悪いところを十分に承知しながら、改めてメディアとつきあい直してみよう。そのとき、わたしたちはメディアを使うことを通じて、自分の生活をいっそう豊かなものにしていくことができるはずだ。

単語

改めて(あらためて)	[副]	[前から問題になっていた事柄を] 何かの機会に、出発点に立ち戻って考え直すことを表わす。/ 另外, 再
振り返る(ふりかえる)	[自五]	なに・どころー過ぎて来た跡を思い出してみる。/ 回头看, 回顾
帰宅(きたく)	[名・サ変]	自分の家に帰ること。/ 回家
読みふける(よみふける)	[自五]	夢中になって読む。耽読する。/ 埋头阅读
おしゃべり	[名・サ変]	[肩の凝らない話題で] 人と雑談をすること。また、その雑談。むだ話。/ 聊天, 多嘴
少なからず(すくなからず)	[副]	はなはだ。たいそう。/ 多, 非常
切ってもきれない(きってもきれない)	[慣]	断ち切ろうとしてもきれないほど強いつながりがある。/ 不可分割
受け取る(うけとる)	[他五]	なにヲなんだトー それぞれの判断力・洞察力によって情勢を分析し、自分なりに解釈する。/ 接受
知らず知らず(しらずしらず)	[副]	思わずしらず。無意識のうちに。ついつい。/ 不知不觉地
約束事(やくそくごと)	[名]	約束した物事。/ 约定的内容和事项

第 1 課

題材(だいざい)	[名]	芸術作品や学術研究のテーマとなるもの。/題材
大写し(おおうつし)	[名]	〔映画で〕カメラを近づけて大きく写すこと。クローズアップ。/特写
人物(じんぶつ)	[名]	〔観察・描写・評論などの対象としての〕人。/人物
暗黙(あんもく)	[名]	〔分かっている、承知したということを〕口に出しては言わないこと。/沈黙
トップ記事(トップきじ)	[名]	新聞紙面の最上段の最初の部分。/头条新聞
できごと	[名]	世間で起こる、いろいろな事件。/事件, 変故
見出し(みだし)	[名]	新聞・雑誌などで、内容の要点が一目で分かるように、本文の前につけた短い語句。〔活字が本文より大きい〕/標題
比例(ひれい)	[名・サ変]	〔俗に、相関関係を持つ一方がふえると何程か他方もふえ、一方が減ると何程か他方も減る事を指す〕正比例。/比例
度合い(どあい)	[名]	ある範囲の中で計られた、そのものの高低・多少・強弱など。〔温度計でいえば、目盛りで表わされるものに当たる〕/适当的程度
密接(みっせつ)	[形動]	切り放すことが出来ないくらい深い(近い)関係がある様子。/密切
映像(えいぞう)	[名]	他の物の表面に映し出された物の形・姿。/印象, 图像
ふんだん	[副]	多くあるさま。十分に豊かなさま。たくさん。/豊富
盛りこむ(もりこむ)	[他五]	その内容を組み入れる。/装入
迫真(はくしん)	[名]	演技(演出・創作)である事を忘れさせるほど、訴える力が強いこと。/逼真
先ほど(さきほど)	[副]	すこし前の時刻。いましがた。いまがた。せんごく。/剛才
ところが	[接]	しかるに。そうであるのに。/可是
臨場感(りんじょうかん)	[名]	〔主体のリアルでデリケートな心情や、その置かれた環境のディテールが〕その場に居合わせなければ、とうてい体験出来ないような瑣末(サマツ)な事の描写を通じ、ありありと伝わってくる感じ。/身临其境的感覺
編集(へんしゅう)	[名・サ変]	著者(出版担当者)として、取捨選択した原稿を一定の方針で配列し、雑誌・新聞・単行本などを作ること。〔広義では、映画のそれや放送番組の編成をも含む〕/編輯

切り落とす(きりおとす)	[他五]	切って、そこから取り去る。/砍掉, 剪掉
側面(そくめん)	[名]	さまざまな性質・特質のうちのある面。/側面
断片(だんぺん)	[名]	本来一つにまとまった物事のごく小さなきれはし。/碎片, 片断
挟み込む(はさみこむ)	[他五]	物の間に入れ込む。はさみ入れる。/插入
さえ	[副助]	添加を表わす。/除了……外
ゆがめる	[他一]	心・行いなどを正しくなくする。道理・真実にはずれさせる。/扭曲
意図的(いとてき)	[形動]	何か目的が有って、特にそうしようと考えること。/有意图的
隠す(かくす)	[他五]	(どこに)なにヲー/どこデなにヲー 他人に見られたり、知られたりしないようにする(位置に、その物を置く)。/隱藏
しかしながら	[接]	しかし/然而, 但是
スローモーション	[名]	[slow motion] [映画・ビデオなどで] 撮影・録画時のスピードが、映写・再生する時よりも ずっと速いために、異常にゆっくり見える動作。[俗に、終始のろのろして見える動作をも指す] /慢镜头
肉眼(にくがん)	[名]	有形の物しか見ることが出来ない、普通の人の目。⇔心眼/肉眼
そぎ落とす(そぎおとす)	[他五]	削り落とす。削り取る。/削落
ものの	[接助]	それから先に事態が進展しないことを表わす。/虽然……但是……
伝わる(つたわる)	[自五]	何かを媒介にして、そこに在るものが主体に感じ取られる。/传达
そもそも	[副]	根源を尋ねることを表わす。/究竟, 到底
こそ	[副助]	特にその語を取りたてて、強調する主体の気持を表わす。/只有, 才是
体験(たいけん)	[名・サ変]	直接自分自身が経験すること。また、その経験。/体验
見過ごす(みすごす)	[他五]	たいしたことはない、なおざりにする。/置之不问
目を向ける(めをむける)	[連語]	関心を示す。/(往某一方向)看

痩せ細る(やせほそる)	[自五]	やせて細くなる。/消瘦
つまり	[接]	前文に述べた所の趣旨を、次の文で敷衍(フエン)するに先立って、つなぎに用いる言葉。/总之
コイン	[名]	[coin] 硬貨。/硬币
裏表(うらおもて)	[名]	裏と表と(の関係)。/表里
備わる(そなわる)	[自五]	(いつでも使えるように)必要な物が用意してある。/备有, 设有
積極的(せっきよくてき)	[形動]	新しい(明るい)ものを志向し、前向きな所が見られる様子。/积极的
見失う(みうしなう)	[他五]	得ようとした目的物を求めそこなう。/看不见, 迷失
長所(ちょうしょ)	[名]	[人や物の] 働きに伴って見られるよい面。/长处
短所(たんしょ)	[名]	[人や物の] 働きに伴って見られる、よくない面。[狭義では、性格の欠点を指す] /短处
単に(たんに)	[副]	ただその事だけ(のため)であって、それ以外の理由によるものではない、ということを表わす。/仅, 只
自ら(みずから)	[副]	自分から積極的にそうすることを表わす。/亲自, 亲身
発信(はっしん)	[名・サ変]	郵便・電報を出すこと。[何らかの情報を外部に送り出す意にも用いられる。例、「SOSを一する/電話の一音/情報一基地」] /发信
注意点(ちゅういてん)	[名]	大事な点や微妙な変化などを見落とししたり、何かをする時にやり損じをしたり、しないように、気をつけたり、気をつけさせたりすべきところ。/注意点
送り手(おくりて)	[名]	[放送・通信などの情報を] 提供する人。/提供者
視点(してん)	[名]	物事を描いたり、論じたりする時の作者や論者の立場。/视点
受け手(うけて)	[名]	情報を受ける側の人。/接收人

基本文法

1. ～てほしい

【原文】毎日の生活を振り返ってみてほしい。

【说明】第3、4册中曾出现过「仕事量に応じ給料を考えてほしい。」等说法,但并未进行讲解,在此作详细说明。

【接续】動詞て形+てほしい

【意思】表示讲话人希望第二、三人称做该动词所表明的动作,希望的对象用「に」,「～に